

相馬市立中村第一中学校だより



螢雪の功

令和6年9月30日発行
文責 高瀬 永志

体験から学んだ2日間

総合的な学習の時間で、各自の探究テーマを深めるために、**26, 27日体験学習**を各学年の計画で行いました。ふだんの学校の授業からさらに活動の場を広げ、地域社会で体験から学ぶ2日間でした。各学年様々な方々から、ご協力をいただきながら、子ども達にとって貴重な機会となりました。

1年生は、**防災、減災学習**として、**東日本大震災・原子力災害伝承館**を見学し、次の日は**自衛隊**による防災教室を行いました。先週の相馬の語り部のお話に加えて、今回は、伝承館で様々な展示や双葉地方の語り部から、東日本大震災について総括的に、くわしく知ることができました。自衛隊の方々からは、ロープワークや物資運搬、水難救助法などの具体的な方法（自助・共助）、そして災害に備えて国や市が定め、実施している施策（公助）などを学びました。防災意識を高めるきっかけとして、自分の命を守る力と、正しい防災知識、対処方法を身に付けさせ、**災害の多い国を生き抜く人に育てたい**と思います。



救命胴衣を着用する1年生



測量のお仕事を体験する2年生

2年生は**職場体験**を行いました。2年生は自分の進路を考え始める時期であり、キャリア学習の一環でもあります。職業について学ぶことを通じて、**社会課題**に関心を持ち、**自分の生き方**を考えさせるというねらいがあります。2日間実際の職場に飛び込んだ子どもたちは、みんな一生懸命に活動し、多くの体験先でお褒めの言葉をいただきました。子ども達にとって緊張の中の2日間であり、かなり疲れることと思われます。しかし、「仕事は大変」「仕事はつらい」という感想で終わらせるのではなく、仕事の大変さの先にあり、**やりがいや充実感**などに目を向けさせたいと考えます。業務忙の中、中学生のために体験の場を提供してくださった各事業所の皆様に感謝いたします。

3年生はイノベーションコース構想機構のご協力のもと、ふくしまイノベ未来講座を実施しました。ロボット開発を行っている**株式会社ケフウシャ**の大西威一郎様、**宇宙エレベーター協会**の大野修一様、環境エネルギー教育を支援している**株式会社ペスコ**の小又智輝様、それぞれから講話をいただきました。南相馬市の**ロボットテストフィールド**をはじめ、イノベーションコース構想が展開されているこの地区は、世界でも最先端の技術を開発するための拠点であり、ロボット、ドローン、AIなどの実証実験などが行われています。レストランの料理を運ぶロボットのように、私たちの生活の中にも少しずつロボットが進出してきていることがわかりますが、あと数年で様々なところでロボットが活躍する社会になるそうです。子ども達はどんなロボットがあったら生活が便利で楽しくなるかを話し合っていました。希望や理想をイノベーションで実現する社会になっていくということをこの2日間のお話の中で実感したことだと思います。3年生は**将来の町づくり**について課題を追及しているところです。これから社会をどのように展開させていくかは、子ども達一人一人がどのような発想でイノベーションに関わるかということも重要になってくると考えます。これから社会や世の中に向かう**3年生が探究し、理想を持ち、自分の生き方**を決めていくことにつながるように期待します。

どんなロボットがあったら生活が便利で楽しくなるかを考える3年生



今週の予定

- 9月30日（月）駅伝試走 福島学力調査結果個票配付
- 10月 2日（水）PTAあいさつ運動 7:30～ ノーベル活デー
- 4日（金）後期生徒会総会 英語検定（希望者）
テスト前部活動中止（～6日）

